

つきなみ旅

どんきゃんきゃんの神輿体験！
1300年のご利益を一緒に担ぎませんか？

2025
11月3日
13:30 スタート
受付開始
13:00~

つきなみ旅エクスカージョンプログラム vol.13

参加費

500円(イベント保険代のみ)

集
合
場
所

筑後広域公園フィットネスエリア
みやま市瀬高町本郷

催行者
(協力)

どんきゃんきゃん保存会

ご予約
お問合せ

みやまブランディング
推進委員会
〒835-0023
みやま市瀬高町小川5
(みやま市商工観光課)

TEL 0944-64-1523

プログラム

「どんきゃんきゃんの神輿体験！
1300年のご利益を一緒に担ぎませんか？」
詳しくは裏面をご参照ください。





1, 300年の歴史がある、みやま市瀬高町本郷地区の廣田八幡宮。
祭神である応神天皇が、母君である神功皇后に逢いに行くお祭り「どんきやんきやん」は今も地域の人たちによって受け継がれています。

「どんきやんきやんの神輿体験！」

1300年のご利益を一緒に担ぎませんか？

廣田八幡宮は、724年、宇佐八幡宮（725年創建）から分霊され、729年、聖武天皇の勅命により、創建されました。当初は神官による神事だけが行われていましたが、少しずつ神事に民衆が参加するようになり、氏子が氏神を歓待する形態をとる行事となりました。

また、神功皇后は本郷地区の聖母宮の祭神で、神功皇后の御子である応神天皇は文広地区の廣田八幡宮の祭神であり、年に一度、応神天皇が神輿に乗って矢部川を渡り、聖母宮の神功皇后に逢いに行くお祭りが、廣田八幡宮御神幸祭「どんきやんきやん」です。今回は、本郷・文広地区の人口が減り、お祭りの継承が困難な状況となる中、神様が地域を巡り、地域を清め、地域を守り、五穀豊穡や安泰を祈るお祭り「どんきやんきやん」で、地域の人たちと神輿を担ぐ体験をご用意しました。1300年の祈りとご利益を、あなたも一緒に感じてみませんか？

プログラム

13時00分 受付開始
13時30分 プログラム開始
17時00分 プログラム終了

開催日 令和7年11月3日(月)

時間 13時30分スタート(受付開始13時00分より)

集合場所 筑後広域公園フィットネスエリア

(みやま市瀬高町本郷)

参加料金 500円(イベント保険代のみ)

定員 定員5名(最少催行1名)



くらし調う、
みやま有明。

「八幡さまとお祭り」 つきなみ旅連載コラムvol.12

「お祭りは、地域の紐帯」という言葉があります。紐帯とは古い言葉ですが、共同体の願いを実現する「おび」とでも訳しましょうか。それは、お祭りに溶け込み連帯感を感じご利益をいただくことではないでしょうか。

廣田八幡の創建は古く、宇佐八幡社より一年早く創建されたと聞きました。全国4万6百社ある八幡神の総本宮より古く、長きに渡って祭祀がおこなわれてきたのです。八幡社の謂れは、八幡宇佐宮宣託集によると中国「秦」から馬の文化と共に渡来し皇室によって武神として、そして隼人の怨霊を鎮めるため祀られた神様だそうです。

長きに渡り祭祀をおこなってきた廣田八幡さまと聖母宮、千三百年の靈験を体験してみたいかがでしょうか。



ブランディングアドバイザー
福井 隆

地域生存支援LLP代表
「地域で生きる、希望をつくる」
事業化支援ファシリテーター

誇り高き地域の歴史と伝統

大和の聖母（神功皇后）VS 山門の女王（田油津媛）

ところで、本郷になぜ神功皇后が祀られているかを御存知ですか？

日本書紀によると神功（じんぐう）皇后は実際に、みやま市にきています。西暦367年、大和政権に従わない部族を制圧するため、第14代仲哀（ちゅうあい）天皇は九州に行軍しますが、途中の香椎（福岡市東区）で崩御。神功皇后は自らを天皇の妻【聖母（しょうも）】と称し、さらに軍勢を進めて、大和政権に従わない山門のクニ女王【田油津媛（たぶらつひめ）】を攻め滅ぼしました。ちなみに田油津媛の墓は、瀬高町大字大草字大塚の「蜘蛛塚（くもづか）」という伝承が伝わっています。※当時、大和政権（朝廷）に従わない部族は土蜘蛛（つちぐも）と呼ばれました。魏志倭人伝によれば、邪馬台国の女王「卑弥呼」は、鬼道（呪術）を用いて人々をまとめていたといえます。田油津媛の「たぶらつ」とは「たぶらかしの」という意味の大和言葉です。みやま市の女山はもともと「女王山」、蜘蛛塚もかつては「女王塚」と呼ばれていました。もしかすると、田油津媛は山門のクニの最後の女王（シャーマン）だったのかもしれないね

